

平成26年度情報科学研究科・情報文化学部 留学生相談室状況報告

国際教育交流センター教育交流部門

Michelle KUHN

1 はじめに

筆者は平成26年12月に情報科学研究科・情報文化学部へ留学生相談室の担当として着任した。はじめに、筆者が名古屋大学の留学生として来日し、様々な活動に関わってきたことから、これらについて紹介をかねて報告する。

平成21年10月に名古屋大学文学研究科の大学院研究生として来日し、平成24年3月に修士号を取得した。平成26年3月に同研究科を満期退学し、現在博士論文を執筆している。平成21年から名古屋大学の留学生センターアドバイザー部門（旧名：留学生相談室）のピア・サポーター組に参加した。ピア・サポーターの一員として、名古屋大学留学生向けのイベントの企画をしたり、全学留学生オリエンテーションにて個人経験について報告した。『名古屋大学国際教育交流センター紀要』第9号、第10号、第11号におけるアドバイザー部門の状況報告で書かれているイベントにも参加した。平成24年から名古屋大学のオープンコースウェアというウェブサイト (<http://ocw.nagoya-u.jp>)

の英訳を担当した。平成25年から「留学生の声」という新ビデオ・インタビューシリーズをウェブサイトにて公開してきた。演出担当として、留学生と話しながら名古屋大学、名古屋市、愛知県を紹介した。

この5年の間、留学生として名古屋に大変お世話になっており、名古屋大学の留学生を応援できる特任講師として採用されて、非常にうれしく思う。渡日前までに十分支援をしていくことが留学生生活の開始やその後の留学生生活のクオリティに重要な影響を与えることから、今後も留学希望者や指導予定教員への支援に尽力したいと考えている。

2 留学生に対する相談支援業務の概要

平成26年12月より後の留学生、留学希望者、日本人学生等に関する相談業務対応件数は297件であった。また業務対応の内容は表1の通りであった。

平成26年12月に着任したばかりであるため、留学生に対する相談はまだ比較的少ないが、積極的に新入学生と既にいる留学生との交流を行っている。

表1 平成26年度 相談業務対応件数

	4/1～9/22 (山口氏担当分)	12/1～3/31 (筆者担当分)	26年度 合計	25年度 (参考)
入試等進路に関するもの		4	4	
研究生受け入れに関するもの	58	155	213	103
学習・研究に関すること（日本語学習を含む）	45	0	45	24
事務手続きに関すること	60	14	74	71
一時帰国・帰国・入国・在留・家族呼び寄せに関して	59	11	70	87
宿舎に関して	34	25	59	52
奨学金や授業料に関して	0	12	12	14
日本での生活や適応、人間関係、医療・健康など	16	2	18	25
地域の留学生交流に関して（留学生会を含む）	99	1	100	149
就職関係	10	0	10	8
教員から	121	2	123	177
その他	61	71	132	167
合計	563	297	860	(915)

実際の支援は多岐に渡っている。授業料免除申請書の書き方、宿舍の探し方、本屋やレストランのおすすめなどに関する指導をする。学生たちは初めて母国から離れ、両親や家族から離れるため、日常生活についての指導が重要であると考え、日本の料理など、非常に細かいことについても指導している。

3 学部・研究科内の留学生関係業務について

留学生相談室の担当者として、情報科学研究科教務入試委員会、情報科学研究科教授会、情報文化学部教授会にオブザーバーとして出席している。会議で留学生関係の案件が出てきたときや、英文化推進案件が出てきたときには、留学生・名古屋大学大学院生の経験を踏まえて発言するようにしている。

平成26年12月から留学希望者、辞退者、スカイプ面接を受けた後合格となった人数を集計している。人数は表2の通りであった。

表2 平成26年度 研究生受入人数

	希望者	辞退者	不合格	合格
平成27年4月 外国在住者申請	3	不明	不明	3
平成27年4月 国内在住者申請	7	0	1	6
合計	10	0	1	9

前任者である山口博史氏の任期期間中にスカイプ面接が開始された。山口氏によると、「現在では研究生希望者本人確認のためのスカイプ・インタビューの実施を軸とし、教員と留学生希望者による3者面談を含めて行っている。最初に教員サイドで受け入れ希望の連絡を受けた後、ある程度学生の専門や学習歴を勘案し教員サイドと留学生相談室教員とが協力して留学生希望者の受入にあたっていくものである」(山口, 2014年)。筆者も同様にスカイプ面接を行っているが、スカイプ面談における質問内容は以下のとおりである。まず、日本・名古屋大学に留学したい理由、指導予定教員のもとで研究したい理由、専門的な経験(授業など)、経済面(授業料・生活費の準備)、将来のキャリア・ゴール、日本語・英語の能力について、来日の経験、留学前の準備等について聞く。面接の内容は全て「面談ノート」というファイルに保存し、大学院係の関係者と指導教員に提供する。

面接は、日本語で実施しているが、希望者の日本語能力が低い場合、筆者が教員と希望者間の英語通訳としての役割を果たしている。しかし、本研究科では入試や授業は基本的に日本語で行われるため、日本語能力が必要となる。そこで、面接の際には、一定程度の日本語能力が必要であることを伝え、合格した場合、来日までに日本語能力を向上させることを推奨している。

以前は、スカイプ面接の目的は本人確認がメインであったが、現在のスカイプ面接は希望者の日本語能力と研究計画の内容をチェックしながら、指導予定教員との適合性を確認している。そのために、今年希望者のうち1人がスカイプ面接の際に「不合格」とされた。その場合、指導教員より不合格の理由を希望者にメールで送るようにしている。理由は主に日本語能力と研究能力の不足である。以上のように、研究生希望者の受け入れ関係業務が最も時間を費やした業務であった。これについては、研究科の大学院係、庶務係、会計係と他の留学生担当(特に渡部留美氏と中島美奈子氏)の支援を受けながら行った。

その他、NUPACE 事務から依頼を受け、入試委員会でNUPACE 学生の指導教員を決定した。また、文部科学省の国費「大学推薦」の応募者の面接に同席した。

4 学内の留学生関係業務

筆者は国際教育交流本部国際教育交流センターの所属であるため、情報文化学部・情報科学研究科の留学生対応以外の業務も行っている。本部における業務については以下のものであった。毎月国際教育交流センター全体会議と教育交流部門会議に出席し、教育交流部門会議では月報を提出している。

平成27年2月10日「ボランティア研修会 地域・学生ボランティアと国際交流」についての会議、2月12日「ユニバーサルデザイン推進ワークショップ」、2月17日「学生寮視察報告会」、国際教育交流業務に関する教職員研修「グローバル化する大学の職員像」に参加した。

また、英語母語話者として、様々な英文化推進作業に参加した。チューターハンドブックの英訳修正、留学生ハンドブックの英訳作業、国際教育交流センターにおける教育交流部門の自己紹介文英訳作業、英語

コースカタログの一部原稿作成などである。

5 学外機関とのかかわり

2月5日に、渡部留美氏(教育交流部門)、中島美奈子氏(教育学部)、井戸田満氏(国際部国際学生交流課)とともに大阪大学で行われた「国立大学法人留学生センター留学生指導担当研究協議会」に参加した。その際、他大学の留学生受入・寮管理などについて勉強したり、他大学の留学生関係者と交流できたために、非常に貴重な機会であった。

6 今後の課題

着任した12月の主な作業は留学生受入れの手続きについて学びながら、入学希望者に伝えることであった。手続きのやりとりについては、大学院係から助言を受けることができたため、早い段階から慣れることができた。しかしながら、研究生の出願書類については、改善すべき点もみつまっている。これまで、希望者や指導予定教員より、「書類が分かりにくい」、「フォーマットが崩れやすい」など様々な意見を受けてきた。そこで、本学の他部局の留学生担当者に会い、様式について調査する予定である。そして、大学院係と相談しながら、出願要項と出願様式(ワード・PDF・エクセルなど)を改訂するつもりである。

また、出願要項については、文書の英文化に関する課題があげられる。平成25年度後期分から新規博士課程(前期課程と後期課程)の出願要項は日本語版しか出版されておらず、筆者が、平成25年度前期に作成された出願要項英語版を改訂し、希望者には個別に英語の案内を提供している。この二年間は英語の案内はウェブサイトアップロードされていないため、英語版の作成を平成27年度の課題として取り上げたいと思う。

次に、留学生の生活スタートの支援方法を改善したいと考えている。27年4月入学の新入生を一人ずつ招き、留学生相談室で名大IDとパスワードの配布を行っ

た。名大IDを配布する際に「情報セキュリティ研修」、「安否確認登録」、「緊急連絡用アドレスの登録」も行った。今年は少人数(6人)であったため個別に行ったが、平成26年10月に入学する人数は15人を超える予定であるために、全員を集めて、同時に名大IDと「情報セキュリティ研修」等の研修を行いたいと考えている。

新規渡日する留学生の生活サポートの課題の一つに銀行口座開設がある。国費留学生とNUPACE学生は、学内で特別に三菱東京UFJ銀行に口座を作る手続きが受けられる。しかし、私費留学生はその手続きに参加できず、学外で口座開設をしなければならないが、銀行によっては、渡日直後の外国人は口座を開設できないところが少なからずある。本研究科では、入学手続きの際に、銀行口座番号を記入する必要があるが、口座を持っていない学生は、手続きが円滑にできず、情報文化学部・情報科学研究科の会計係に迷惑をかけることになる。

また、残念ながら前任者から留学生相談室の過去のデータを引き継ぐことができなかった。過去の留学生の受入数が不明であるため、過去の受入数やその他の留学生に関するデータを収集し把握するために、大学院係が保管しているファイルを平成27年の夏季に調査する予定である。平成27年4月入学者は9名であったが、平成27年10月入学者は15名を超える予定であり、これまでの方法についての改善は重要であると考え

参考資料

- 山口博史「平成25年度情報科学研究科・情報文化学部 留学生相談室状況報告」『名古屋大学国際教育交流センター紀要』創刊号, 2014年10月。
- 坂野尚美「名古屋大学 ACS メンタルヘルス担当およびソーシャルサービス室の活動報告(2013年度)」『名古屋大学国際教育交流センター紀要』創刊号, 2014年10月。
- 坂野尚美「国際化拠点整備事業(グローバル30)留学生相談の分析と教職員研修で見えてきたもの」『名古屋大学留学生センター紀要』第9号, 2011年8月。
- 同, 第10号, 2012年7月。
- 同, 第11号, 2013年8月。